

2018年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずの中心はグリーンランド周辺に見られ、西シベリアとアリューシャン列島付近にも分裂していた。北米～ユーラシア大陸北部で波列パターンが卓越し、ヨーロッパ北部と東アジア北東部で正偏差となった。太平洋と大西洋では、中緯度で帯状に正偏差となった。200 hPa 風速をみると、ユーラシア大陸で偏西風が分流した。日本付近では、偏西風は平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧は、グリーンランド周辺で負偏差、ヨーロッパ北部と南シナ海～日本の南海上で正偏差となった。太平洋と大西洋の亜熱帯高気圧は平年と比べて強かった。850 hPa 気温は、米国及びその周辺、ヨーロッパ、東アジア東部で高温偏差、カナダ東部、西シベリアで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、北インド洋西・中部、ミクロネシア中部～ハワイ付近で活発、南シナ海～日本の東海上、太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の中旬～下旬にインド洋～インドネシア付近を東進した。対流圏上層では、北緯20度帯で波列パターンが卓越し、ベンガル湾～フィリピンの東海上で低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、ベンガル湾～フィリピン付近、日本の東海上、米国の東海上で高気圧性循環偏

差、フィリピンの東海上で低気圧性循環偏差となった。海面気圧は、太平洋赤道域で正偏差、太平洋西・中部の北緯10度帯で負偏差となった。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

2018年5月の世界の月平均気温偏差は+0.33°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、4番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.72°C/100年（速報値）である。

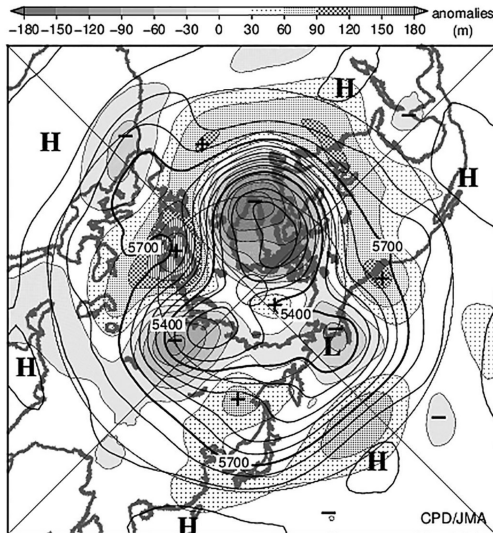
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 本州付近～中国南東部、ヨーロッパ及びその周辺、カナダ西部～米国南東部及びその周辺で異常高温となった。
- 西シベリア東部～カザフスタン北東部で異常低温となった。
- 米国北東部～南東部、アルゼンチン北部及びその周辺で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

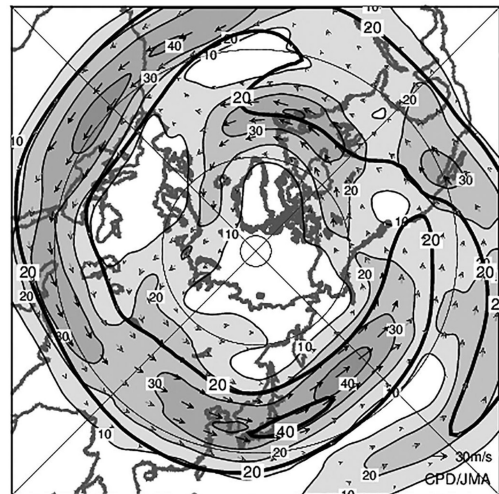
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



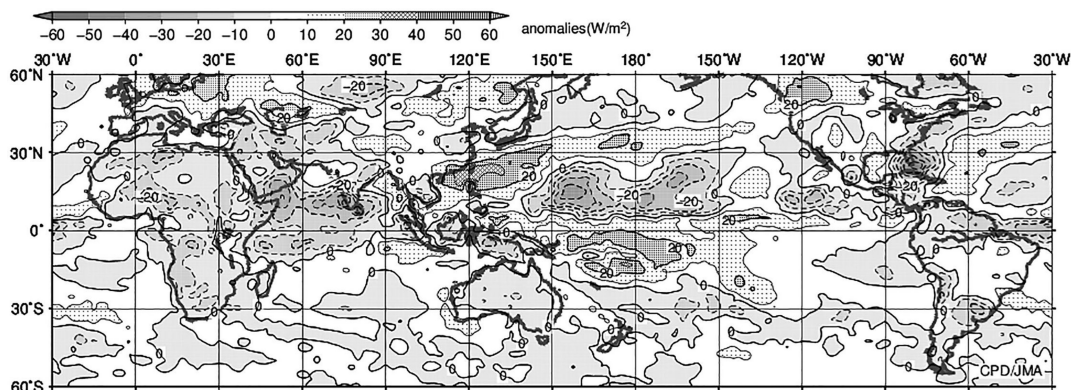
2018年5月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

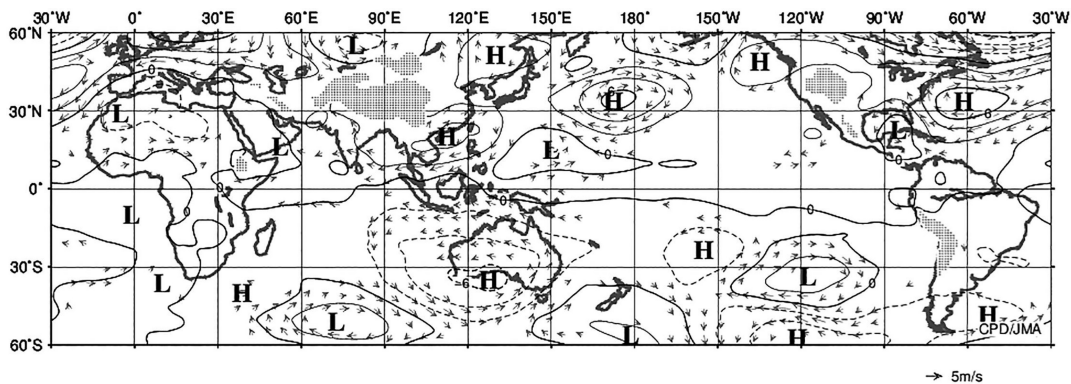


2018年5月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

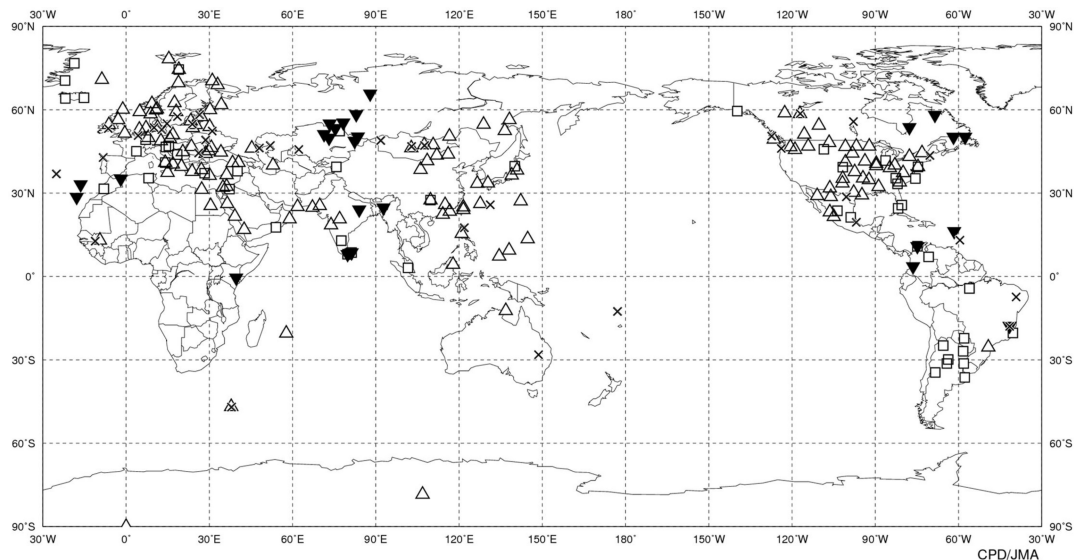
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。